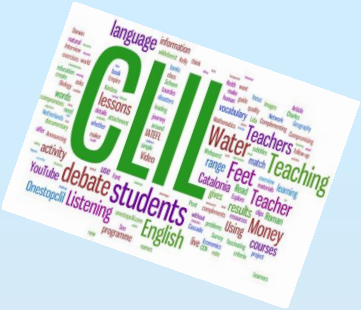
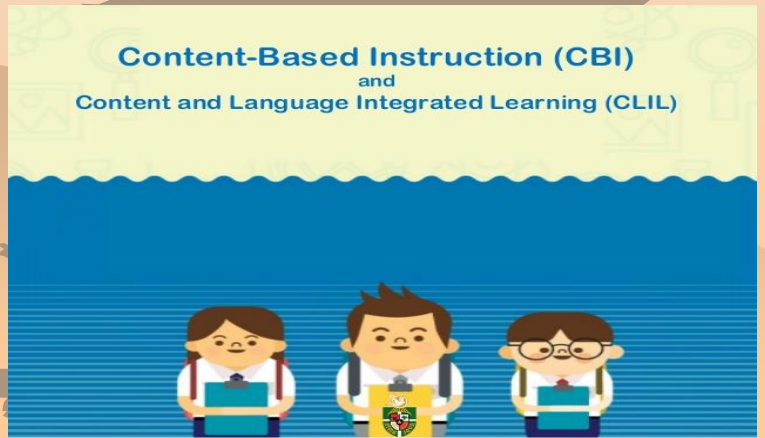


Interdisciplinary CLIL Teacher Development: A Small Change Goes a Long Way



Sanae Saito

self01018@yahoo.co.jp

Contents

1. Historical Background
   1-1. CLIL Type Teaching and Learning
   1-2. English Education in Japan: Learning from Predecessors in the Meiji Era
2. CLIL Teacher Education at College Level
3. Report of Intensive CLIL TE (FD) Programs
4. Overall Findings & Consideration
5. Concluding Remarks

References

Hm…

Confusion is …

Learning is …

Teaching is …

History of the Use of a Second Language: CLIL-type Learning

📖 The first known CLIL-type program

Q1 How long ago?

a) 50 b) 500 c) 5000

Q2 What subjects were taught to the Akkadians

a) theology, b) botany, c) zoology

📖The use of a SL to teach content in the 18th Century

Q 3 For centuries,

( ) was used as a language of instruction in European universities and became the primary use of theology, medicine, science, law and philosophy.

Immersion programs

Q 4

In 1965, a group of English speaking parents in Quebec, Canada had become worried that their children would be at a disadvantage later on in life did not achieve fluency in

).

CLIL: Language Policy of EU

In 1995: Plurilingualism

the European Council set up a goal

"citizens of Europe, are to be encourage to be able to speak L1 + languages" CLIL grew

ICC (Intercultural Communication Competence)

- ECML (European Center for Modern Languages)

=> CLIL Teacher development

(Haata ja et al. 2011, ECML, 2014)

CLIL in the EFL context,

📖 an approach for mainly…

non-English speaking teachers who teach subjects to non-English speaking learners

---

Turning Eyes to Japan in the Meiji Period

📖 Slogan…

"overtake the West and
pass it up!"

ever since the Meiji period

Q English teachers in the Meiji Period?

(a) Natsume Soseki

(b) Ishikawa Takuboku

(c) Akutagawa Ryunosuke

(d) Shimazaki Toson

(a)

(d)

Ans. (a), (b), (c)

1. Learning from Predecessors in the Meiji Era

Clark, William Smith

(1876)

Sapporo Agricultural School

Well, in fact, I was an nglish teacher.

Uchimura Kanzo

Consideration on English Education

by Soseki

1. 📖 Subjects & Language Learning

。。。一般に、学生の語学の力が減じたということは、よほど久しいまえから聞いているが、わたしも また実際教えてみてそう感じたことがある。はたしてそうだとすれば、それはどういう原因から 起こったか。その原因を調べなければ、学習の方針も、教授の方針も立つものでないが、専門的 にそれを調べるには、その道の人がいくらもある。わたしは別にまとまった考えがあるわけでは ないが、気づいたことだけをごくざっと話して、一般の教育者と学生の参考にしようと思う。わたしの思うところによると、英語の力の衰えた一原因は日本の教育が正当な順序で発達し た結果で、一方からいうと当然のことである。なぜかというに、われわれの学問をした時代は、 すべての普通学は皆英語でやらせられ、地理、歴史、数学、動植物、その他いかなる学科も皆、外 国語の教科書で学んだが、われわれより少し以前の人にたると、答案まで英語で書いたものが多 い。われわれの時代になっても、日本人の教師が英語で数学を教えた例がある。かかる時代には、だてに金どけいをぶらさげたり、洋服を着たり、ひげをはやしたりするように、英語 を使うて、日本語を用いる場合にも、英語を用いるというのが一種の流行でもあったが、同時に 日本の教育を日本語でやるだけの余裕と設備とが整わなかったからでもある。したがって、単に 英語を何時間おそわるというよりも、英語ですべての学問を習うといったほうが事実に近いくら いであった。すなわち英語の時間以外に、大きな意味においての英語の時間が非常にたくさん あったから、読み、書き、話す力が、比較的自然とできねばならぬわけである。

3. More Thoughts

。。。もう少し具体的に、なにゆえに改良の効果がないかと考うるに、つまり 普通教育などで、こういうふうの改良をするには、時間、教授法、教師の三っ以外には改良すべ き方法がないからである。ところが、いくらやかましく時間の改良といったところで、本末を転倒して外国語に多数の時間を与うることができぬのみならず、普通教育の程度以上では第二外国 語をやる必要があるから、とても時間の繰り合わせがつかない。また、教授法はずいぶん肝心な ものであるが、いくら細目がりっぱにできていたところで、教授法自身が活動してくれるわけで ないから、よくそれを体得した教師が、じゅうぶんの活用をしてくれなければ、効果があがるもの ではない。教授法とはつまり、適当な教師が周囲の事情を見計らって、これがベストだと思って 実行しつつある教授を概括して、条項に書き並べたものにすぎない。ゆえに、適当な教師がいな ければ、いかに条項が完備していても、とうていその運用ができるものでない。同時に、適当な 教師さえあれば、教授法などが制定せられなくても、その行なうところが自然教授法の規定した 細目に合うわけである 。。。語学といえば簡単であるけれど、区分すれば、話すこと、書くこと、読むこと、訳することな どいろいろあるが、それらの各方面にわたってひととおり力のある人でなければ、すべてのこと がひととおりできる生徒を養成することができない。もし教師がある点は非常によくできても、 ある点はまったくできないというふうに、その力がかたよっているならば、その生徒はやはりか たよったものとなるわけだ。現今の教師中には英語を日本語に訳することのうまい人が多い一 今日の日本すべは、こういう人がいちばん必要かもしれないが、同時に、生徒も比較的に英語の 意味を取ることがじょうずである。しかし、これで満足するわけにはいかぬ。なにもかも、ひと とおりはできなければならぬとしたならば、そんな教師ははたして幾人あるだろうか。。。

4. Necessity of Teacher Education

。。。しかるに、そこに 一つの道がある。それは新たに教師を作ることである。わたしはかつて大学と第一高等学校に関係をもっているときに、次のようなことを考えた。

文科大学はもともと学者をつくるところで あるが、現在の状況からいえば、その卒業生はおおかた教師になる。ことに外国文学を修める者は教師になるのが多いようである。学者であるべきものが教師ができぬということはないが、教師として不適当でも学者にはなれるのだから、事実をいうと純文学科にあっては、事実上、大学 は学者よりも教師、もっと切実にいえば、不適当な教師をつくっているのである。したがって 国家は非常な損害をしている。この損害を免れるために、わたしは適当な教師を作る案をたてた。すなわち、英文科にはいるものを、今のように各高等学校に存在せしめず に、ことごとくこれを一高等学校に集めて、一組として、在学中は他と混同せしめず、一年から三年まで特別の教育をする。すなわち、三年間、特に英語におもきをおいた一種の教育を施して、 しかるのちにこれを大学に送ることにする。(中略) 余はこれを大学から適当な語学教師(英語)を出す唯一の方法と信じた。今でもそう信 じている。大学にはいってからの課目や教授法も、現在とは変える必要もあろうが、それは第二 のことで、肝心の根本はどうしてもこうして養成しなければいけないと思う。

5. A Suggestion for Teacher Education: Examinations for Language Teachers

いま一っは従来の教師をいかにして改良するかということである。事実、行なわれがたいことで あるかもしれぬが、わたしは全国の中学の英語教師の試験を、ときどき文部省でしてやったらよ かろうと思う。教師の精勤その他は校長にもわかるが、教師たちが平生どれだけ自己の修養に努 めているかは、こんな方法でも講じなければわかりようがない。むろんその試験は随意でいい。 申し出るものにだけに施してもよい。とにかく、二年に一度くらいずっ成績を取っておいて、こ れを校長報告と比較し、いろいろ考え合わして、昇級増俸の道を講じてやる。そうしなけれ ば、中学の教師をして勉強しようなどという気は、まるでなくならしてしまう。生徒も不幸であ る。本人もきのどくである。もっとも、これだけの仕事をするためには、文部省にエキザミナー をたくさん雇わねばならない。したがって不経済ではあるが、この試験官は平生他の方面に利用 することができるから、けっして損にはならない。すなわち、試験をしないときのかれらは、し じゅう中学の英語教師と気脈を通じて、修養上その忠告者となるのである。たとえば、語学に関 した新著新刊のようなものは、月二、三回ずっ印刷して各中学へ送ってやる。時間が許すなら、 その内容やら体裁やらを報知してやる。また、教師のほうでも教授上不審のことや、同僚間で疑 義の決せぬおりは、書翰《しよかん》で試験官に問い合わせる。すると、試験官のほうでもいちいち丁寧にそ の返事を出すというふうに、万事教師の便宜を計ってやる。こうすれば、一方では奨励になり、 一方では改良になって、教師も当局者もともに便宜を得ることだろうと思う。

6. Material Developments

教科書は大いに考うべき問題である。今の中学生はいろいろな書物を読んで、知らないでもい いような字を覚えるかわり、必要な字を覚えていない。まことにばかばかしい話である。(中略) 英国人がわかる文字と事項とを、まんべんなく割り振って排列するようにする。すなわち、かれらの一般に知っている文字と事がらには、五年じゅうどこかで出会うが、そのかわ りむずかしいジョンソンの『ラセラス』に出てくるような字はまったく省いて、生徒に無用な伽卿力を費やさせないようにしてやる。そういう教科書を作るには、どうしたらよいかというに、わたしは外国の新聞を基礎にするのがいちばんよいように思う。『ロンドン・タイムス』でも『デ イリー・メール』でも、一月一日から二月三十一日まで通読すれば、いかなる文字といかなる 事がらがいかに多く繰り返されて社会に起こるかがよくわかる。それでだいたいの統計をとれば、どの字と、どの事がらと、どの句が比較的いちばん必要であるかがわかる。わかったところを 組織だてて教科書に編入する。中には三百六十五日のうち、何百ぺんとなく繰り返されるものがあるに相違ないから、そんなものには重きをおいて、教科書中にも幾度も繰り返しておくと同時 に、年にいっぺんとか、半年に一度ぐらいしか見あたらないものは、まったく省くことにする。(中略) 顧問として適当な西洋人を雇うのも一法である。

7. English Teaching & Learning: Symbiotically Linked & Student-Centered

---

。。。だいたいの知識のない生徒からいうと、会話とか、文法とか、訳読とかいうふうに、教師 が専門的に分かれて裁然区別のあるように取り扱っているのはよくない。どうしても各自が互い に連絡のつくように教え込んでいかなければならぬ。われわれ日本人はご覧のとおり自由自在に 日本語をあやつるが生まれてから今日までにかつて文法を習ったことはない。 (中略) 英語もそのとおりで、われわれが子どものときか ら絶えず日本語を使って自然とその文法に通ずるように、日々反覆して練習すればそれでたく さんなのである。しかし、一週間に何時間と時間を限られては、日本に生まれたる人でも、かく日本語に上達するわけにはいかぬから、今の中学でただ練習の結果自然と英語を学ぶのは困難で ある。やむをえずまず規則を知ってそれを骨とし、それに肉を着せて互いの意志を疎通するよう に話し書くほかはない。(少時間の練習では、とてもベチャベチャしゃべりちらす域に進むことは できないから)。

しかし、根本的にいうと、(中略) 。。。文法を離れて訳はなく、訳を離れて文法はないものとがてんしなければならない。(中略) その他の科目、 作文、会話、読み方、皆同じこ とである。有機的統一ということを考えて、互いに融通のきくような親切な教え方を しなければ なるまい。そのためには、一っの組をひとりで持って、すべての時間をいいかげんに使いこなす ほうが便利になってくる。そうすれば時間も経済になって、効果も大いにあがることであろう。 しかし、これはほんの余談である。要するに、

目下の必要は教科書編成と教員の養成、および改良である。それについて、今まで述べた以外に言うべきこともたくさんあるが、ここでは言わぬ ことにする。話が教えるほうの側ばかりになって、ついおそわる生徒のほうに及ばなかったのは遺憾であるが、あまり長くなるから、これでやめる。

(明治四十四年一月一日一二月一日『学生』)

夏目漱石. (1911). 『語学養成論 』[Theory of Language Education] .

Suggestions for Improvement of English Education in Japan by Soseki

1. Necessity of Teacher Education

(1) Teacher development

- self-assessment for own language skills (EG: examinations for teachers)
- Reflection on own teaching

(2) Teacher's role and Students' role

- Teacher-centered => student-centered
- Teachers => flexibility

2. Materials Development

(1) the use of authentic materials

such as news articles in English

(EG: statistics about high frequency words)

(2) Teacher's role and Students' Role

- student-centered
- Teacher => flexibility

****

📖 In the end, his suggestions were not appreciated by the government.

Roles of University Education in a global society today

- To provide education with students who actively participate in this global society.

- Necessity of teacher education to make oneself a better educator

Walls Stand in the Way of the Spread of CLIL: 3 Lacks

1. CLIL teachers
2. CLIL materials
3. Recognition of CLIL

   (familiarity/understanding)

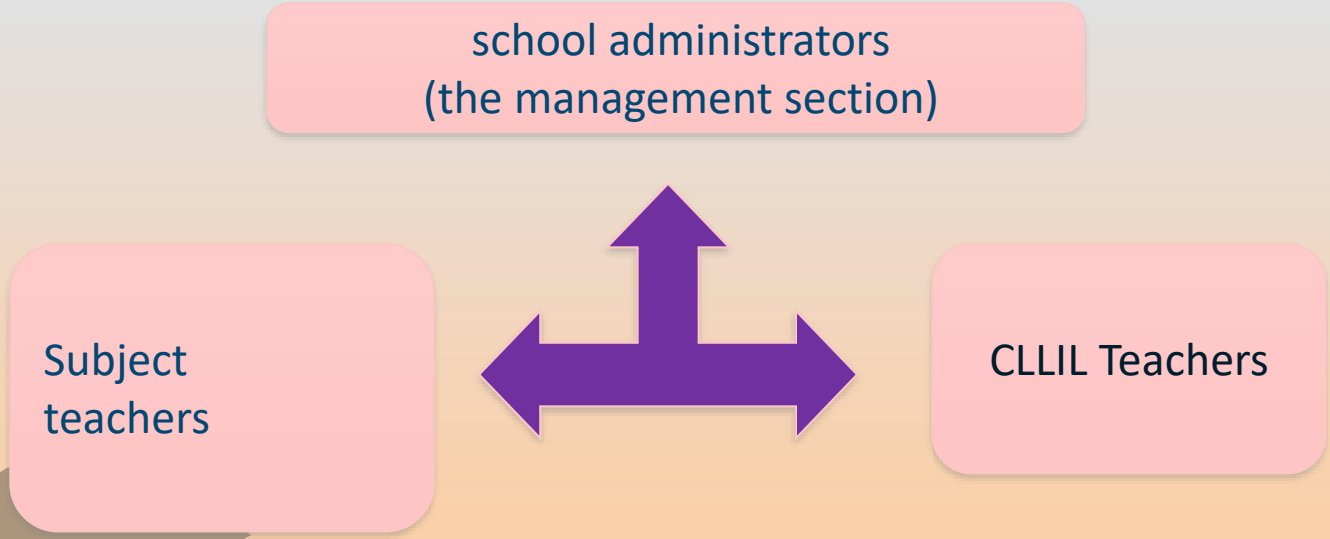
****

Some private institutions so far successfully introduced an immersion program =>

how about doing this across Japan?

Enhancement of Teacher Education at college level

-Collaboration-



Teacher Education

- Spread of Faculty Development (FD)

(systematic grappling with professional development through classroom observation, symposiums to improve class content and methods, research on lesson methods, workshops for both newly appointed teachers and experienced ones

(Central Council of Education, Japan 2005)

Teacher Education / FD

- University Education in the New Age:

the establishment of internationally attractive graduate school education=> In response to the university establishment standards, mandating of FD activities has been in effect since April 1, 2007.

The increase of interest FD along with the mandatory of FD:

According to MEXT, 771 universities (726 universities responded) All the faculty members to FD approximately 13% of the universities that participated in and 37% of the universities with more than three quarters of teachers participated in FD, still highlighting the situation of low FD participation rates.

Pros and Cons: Regarding the concept, definition, pros and cons of FD which originally started in the United States

FD Participation Rates

Questions on FD => 726 / 771 universities

- Participated in: 13%

- 37% of universities with more than three quarters of teachers participated in FD

(MEXT, 2016)

Why CLIL in Japan?

2. A new challenge for educators

"in an effort to develop Japanese college graduates that can successfully participate and actively communicate on the global stage"

necessary=> authentic content oriented communicative language classes must be developed at the tertiary level (MEXT, 2011)

Paradigms

	CBI	Immersion	CLIL
Objectivity	Language learning	Subjects	Learning subjects and a language
Teachers	Language teachers (?)	Subject teachers	Subject teachers & Language teachers
Content	Mainly topics (?)	Subjects	Topics & Subjects
Assessment	Language (?)	Content	Language & content

(Ikeda, 2012, p.4)

CLIL (-like) Approaches?

CLIL (-like) Approaches based on CBI

National Core Curricula (Curriculum)

"Instruction in foreign languages will develop Students' intercultural communication skills: it will provide them with skills and knowledge related to language and its use and will offer them the opportunity to develop their awareness, understanding and appreciation of the culture within the area or community where the language is spoken."

(National Core Curricula for Upper Secondary Schools, 2003, 2003;102)

Report on CLIL Teacher Training at the Tertiary Level in Japan

(2016~2017)

Method: Getting Started in CLIL

Interview (N=8)

Field	English	Physics	Law	Japanese Language
Number	4	2	1	1

Questionnaire from 12 groups (N=26)

1) Political Science and Economics 2) Tourism 3) Humanities & Culture
4) Engineering: Optical & Imaging 5) Engineering: Electrical & Electron
6) Marine Science & Technology 7) Health Science: Social Work
8) Foreign Language Center 9) English & American Literature
10) High School 12) Student Project Center
11) Institute of Global Education & Research Center

Questions Focused on

- Q. thoughts about CLIL
- Q. overall comment on the training program
- Q. suggestions for further development of teacher education in CLIL

Goals Teacher Development in CLIL

Theme: Educational Promotion in the age of globalization

1. To survive (remain in the running in global society)
2. To help teachers improve teaching techniques through CLIL to meet the objectivity of MEXT
3. To gain ideas and inspiration

Teacher Training Programs in CLIL

- What?

  This training program is an extension of those efforts, aimed at improving teachers' educational abilities as globalization has been placing greater linguistic demands on mainstream education.

- CLIL practitioner

  For this program, the institution invites a guest lecturer/ a CLIL practitioner fom the University of Queensland in Australia, which has many international students from non-English speaking areas and develops training programs for teaching courses in English.

- When?

  February 25 - March 1 and March 4 - March 8

Program Schedule

	Day 1	Day 2	Day 3	Day 4	Day 5
1. 5 hrs	● Introduction ● Overview of the course ● Review of CLIL (Theories)	● Roles of Genre in CLIL	● Task Design & Student Output in CLIL	● Assessing Learning in CLIL Context	● Presentation of CLIL Activities
	Lunch				Break
1. 5 hrs	● Roles of Language & Communication Skills in CLIL	● Roles of Genre in CLIL ●Workshop & Presentation Preparation	●Task & Design & Student Output in CLIL ● Workshop & Presentation Preparation	● Assessing Learning in CLIL Context	● Peer & Tutor Evaluation of Presentations ● Course Evaluation

Participants (2017)

Field	Number
Political Science and Economics	1
Tourism	1
Humanities & Culture	3
Engineering: Optical & Imaging	2
Engineering: Electrical & Electron	3
Marine Science & Technology	2
Health Science: Social Work	2
English & American Literature	2
High School	6
Student Project Center	5
Foreign Language Center	3
Institute of Global Education & Research Center	4

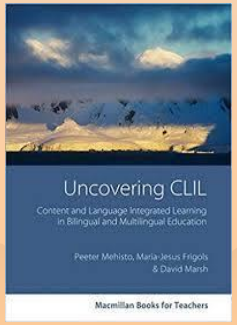
Notes: English speaking teacher (ELC)

Materials

- handouts
  - * theory
  - * example activities
- worksheet
- assessment

based on *Uncovering CLIL*

Mehisto, P., Marsh, D. & Frigols, M.J. (2008). Macmillan Publishers Limited.



Demonstration: It’s My Turn

Presentations by participants (experienced teachers) in 2016

More about Faces of CLIL

For experienced teachers in 2016 (N=11)

For beginners in 2016 (N= 23)

Discussion & Lecture in an Intensive CLIL-Teacher Training Course at the Japanese Tertiary Level

For beginners in 2017

CLIL Teacher Education

	Title	Intensive TE Aiming for further Educational Globalization at Tertial Level
	Session 1	Beginners: 5 days
	Session 2	Experienced: 5 days
	Participants	College/high school teachers
	Number	25 for each session
	Instructor	1 from Queens University, Australia
	Supporters	Section of International Affairs
		(Educational Support)

Outcome (Respondents: N=19)

Feedback	Number
confusing (immersion/CBI/Bilingual/ESP/LSP)	13
difficulty understanding technical terms such as “scaffolding”, “cognitive”, “LOTS & HOTS”, “Skinny Qs & Fat Qs”, “Soft CLIL & Hard CLIL”	9
time consuming for preparation	14
confusing for students	6
why academic studies in English	3
no confidence in own English	11
Difficulty collaborating with others	12
too busy to participate in the training	14
different educational background	2
teacher-centered than expected	8

Confusion: 3 Pillars?

Content ⟷ Cognition ⟷ Language skills

More Confusion

CBI,
Immersion,
Bilingual
education, ESP
(LSP), EMI...

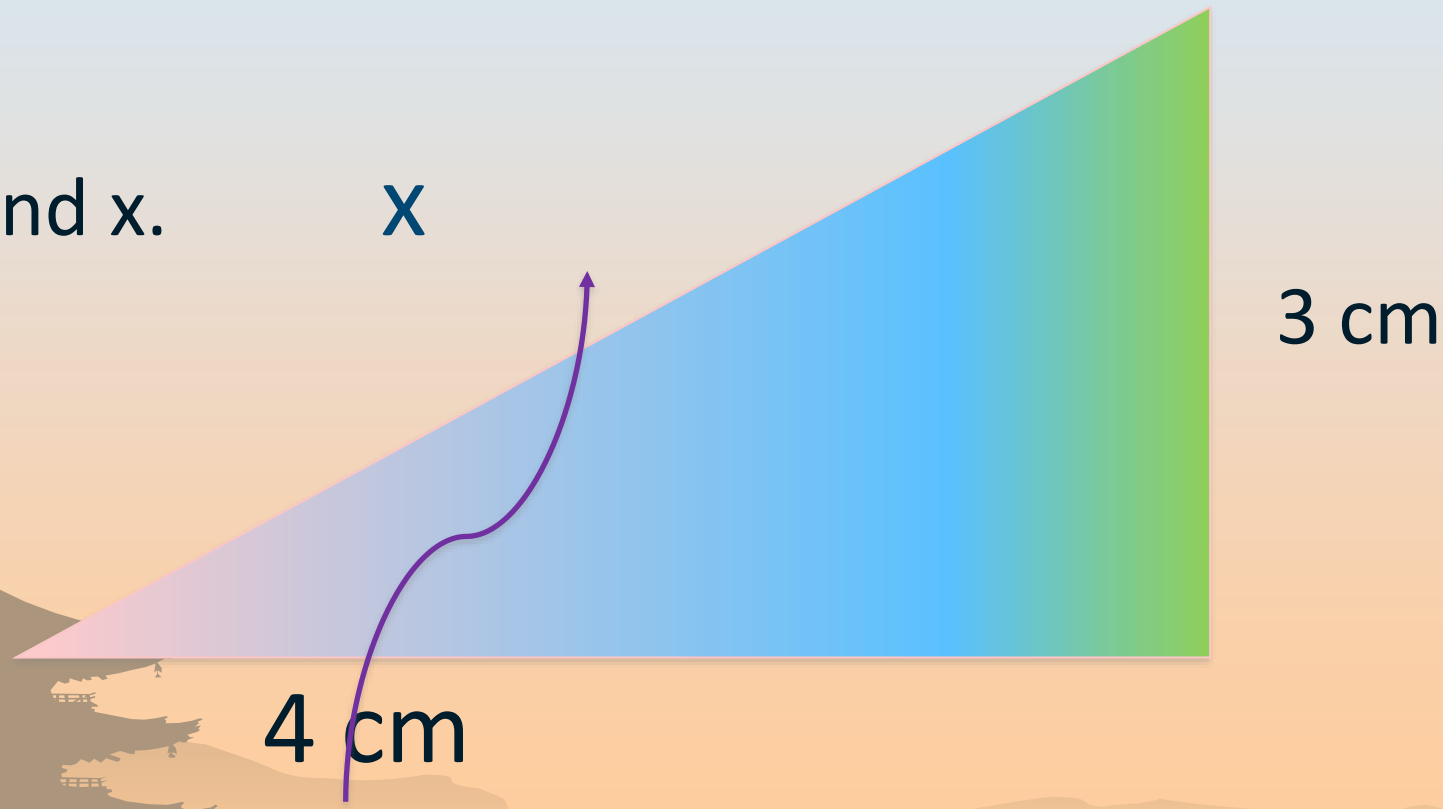
More Confusing: Terminology such as…

- cognition
- content and language
- LOTS/HOTS
- scaffolding
- skinny/fat questions
- three pillars
- short/long term memories

"Cognitive"?:
Example of a math class in CLIL

[Cognitive Puzzling]

Q. Find x.



Ans. Here it is.

Notes from the CLIL Instructor

- Over the course of the first five-day session, program participants took part in lectures about theories and best practices regarding problems that students face in English-language courses as well as teaching styles that effectively increase students' desire to learn. On March 1, the last day of the first session, an instructor lectured on the Experiential Learning Cycle, a teaching method that combines lectures and discussion to encourage students to participate in class of their own accord. After describing the basic outline of this teaching method, program participants engaged in group work activities and exchanged thoughts.

CLIL is…

- helpful: help get exposure to English
  - *increase vocabulary
  - *increase motivation
  - *challenge new ideas
- necessary to compete with others

Voices from a Participant

An engineering teacher who participated in the training program reflected on the program

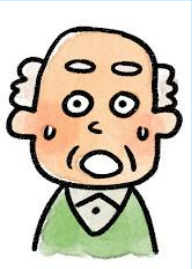
[Extract]

"I was able to gain a broad knowledge about topics, such as putting together a class and effective ways of speaking, from theories to best practices. There were many ideas that I could apply not only to classes in the field of engineering in English as well as those taught in Japanese. I would like to actively incorporate these ideas starting from the upcoming school year."

Notes from the CLIL Instructor

Ms. Y commented:

"It is the University of Queensland's first time offering this kind of program for a Japanese university. On a global scale, university courses are undergoing a major shift from the traditional lecture-based style to a more hands-on learning approach involving group work. Offering this sort of program is a great step for a higher education towards having classes of a global standard. It is hoped that the eager faculty at college will be able to make use of the information they gained from this training program in order to create classes of an even higher standard."



CLIL TE Programs: Problems to be Tackled

1. Financial barriers
2. Sustainability: necessity of sustainable programs for teacher education

teachers need specialized training beyond the framework of foreign language teaching or subject teaching

3. CLIL Programs: when and for what?
4. Further CLIL materials development

Consideration

- Teacher training should address guiding input and supporting learner out put, scaffolding language and learning, using process-focused assessment, making key language salient, and developing process-focused assessment, making key language salient, and developing cognitive academic language proficiency（**CALP**）[Cummins, 1996]

Consideration

CLIL => an effective approach to support teachers

1. Sustainability: sustainable effort for the Enhancement of CLIL Teacher Education
   - More opportunities for teachers to learn
   - Further development of CLIL materials
   - Interdisciplinary Collaboration

Basic Principals of CLIL

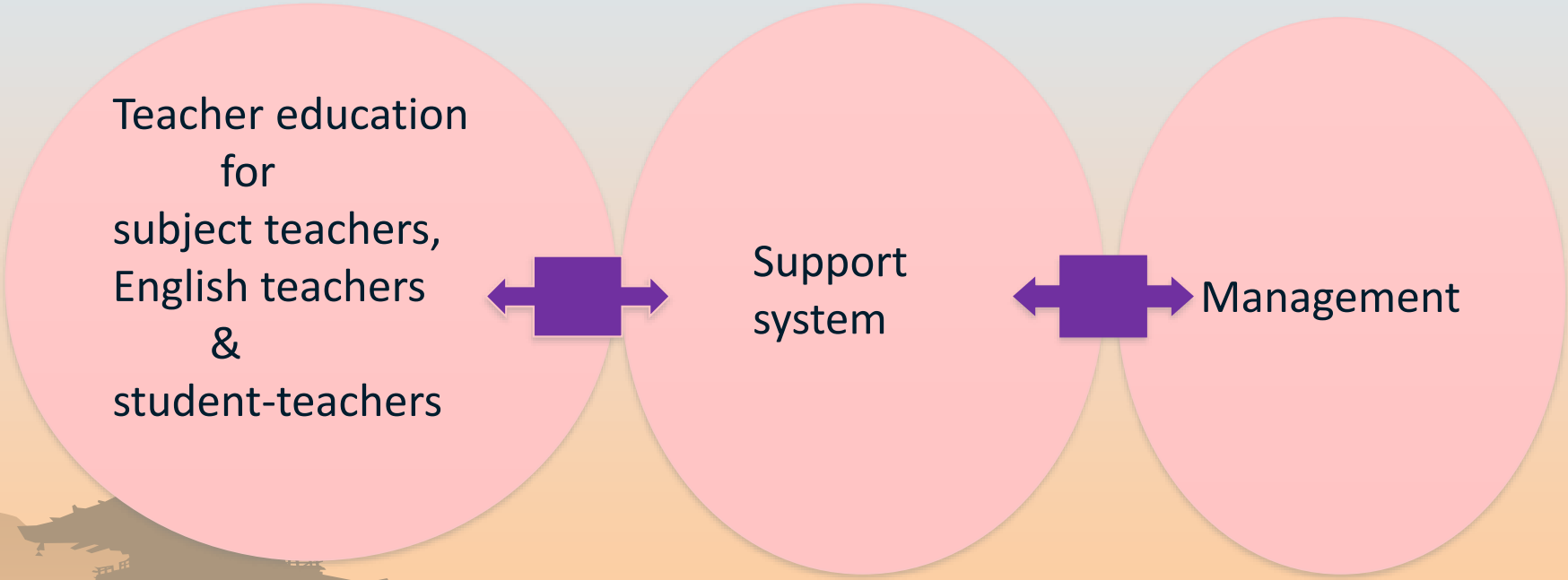
Enhancement of CLIL Teacher Education

- a small change
- see what happens in class
- perseverance, practice, perspiration

Confusion is the beginning of learning

What can we do?

Collaboration



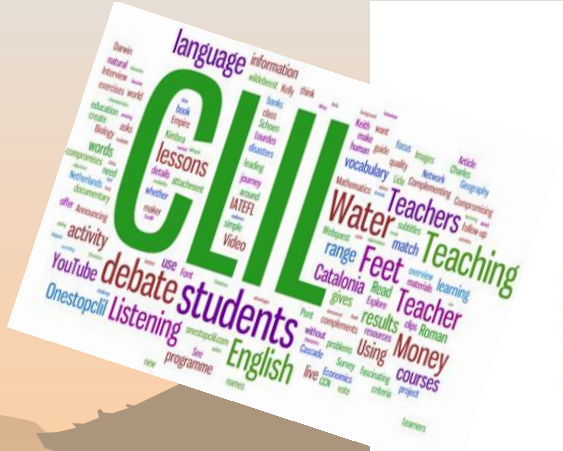
Teaching & Learning

CLT:

* Confusion is the beginning of learning.
* Learning is discovering.
* Teaching is reflecting.

A Small Change Goes a Long Way

Thank you for your attention!



References

Ball, P., Kelly, K. and Clegg, J. (2015). P*utting CLIL into Practice*. Oxford, UK: Oxford University Press.

Coyle, D., Hood, P., & Marsh, D. (2010). *Content and Language Integrated Learning*. Cambridge: Cambridge University Press.

Goto, Y. Butler. (2008). Language & Culture Education in Multilingual Society. Tokyo: Kuroshio.

Haataja, K., K, Kruczinna, Rl., Arkossy, K., & C.C. Afonso (2011)., *CLIL-LOSTE-START: Content and Language Integrated Learning for Languages Other Than English.* European Center for Modern Languaes.

Japan Jena-Plan Association. (2018). http://www.

Kawashima, (2011). "English Teacher. Natsume, Soseki". Tokyo. Shincho-sensho.]

Mehisto, P. Marsh, D. & Frigols, M.J. (2012). *Uncovering CLIL: Content* and Language Integrated *Learning in Bilingual and Multilingual Education.* Oxford: *Macmillan Education.*

MEXT (2916). Definitions of FD and Its Contents. Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT). Retrieved from http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/003/gijiroku/06102415/006/003.htm> (August, 19, 2016).

P., Kelly. & Clegg, J. (2016). "Designing materials for CLIL" in Ball Putting CLIL into Practice.

Sasajima, S. (Ed.). (2011). *CLIL: Content and Language Integrated Learning*. Tokyo:Sanshusha.

Soseki Natsume. (1911). 『語学養成論』[Theory of Language Education] . <loquella.org/soseki_gogaku.pdf>